

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|---|
| ① 国語 | 人 |
| ② 数学 | 人 |
| ③ 英語 | 人 |

5 留意事項

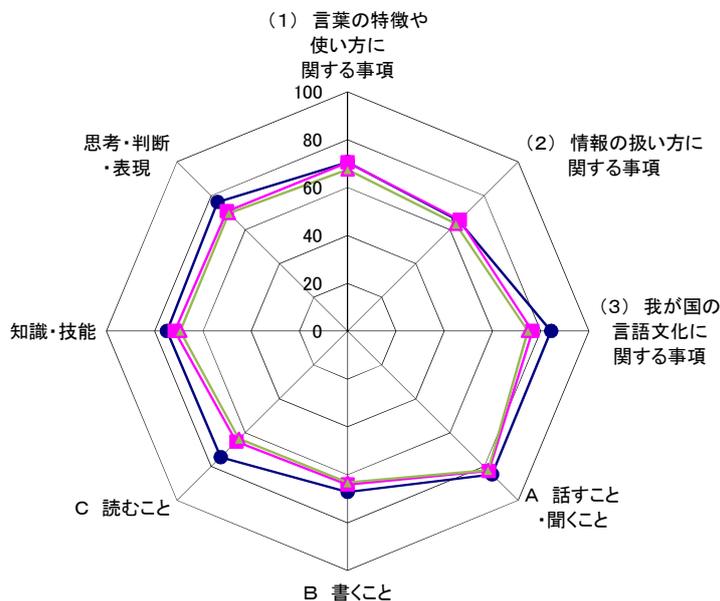
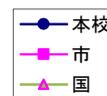
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.2	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.3	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	84.6	82.6	82.2
	B 書くこと	67.2	64.1	63.2
	C 読むこと	74.5	65.3	63.7
観点	知識・技能	74.9	71.7	69.4
	思考・判断・表現	76.3	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

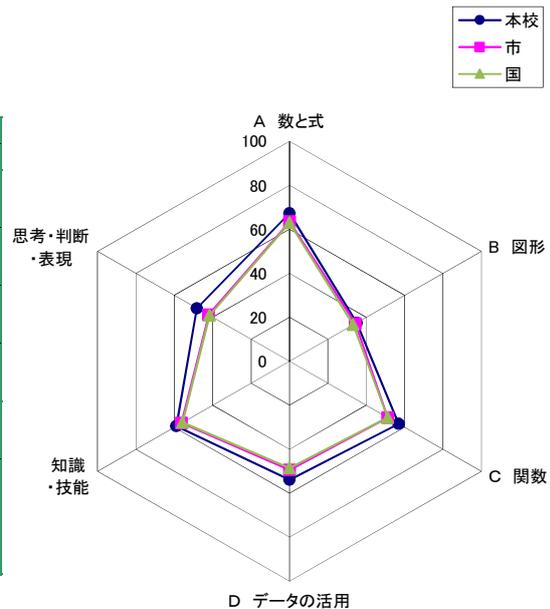
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○漢字の書き取りである、「推す」という字に関しては、全国・市ともに平均を上回っており、51%の生徒が書くことができています。また、言葉の意味も理解できている生徒は多い。 ●平均を上回っているものの、約半数の生徒が誤答している。また、理解せず言語を使用している生徒も多い。	・漢字の書き取りや言語の意味を理解することは高校入試に直結する項目である。また、社会に出た後も求められるスキルであるため、残りの期間でしっかり指導していきたい。また、授業の初めの時間などで漢字の復習を取り入れていきたい。作文指導の際に、誤った言葉の使い方をしていないかチェックをしっかりとしていきたい。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○判事絵について述べた文に対して、見出しを付けるという記述する項目に関しては、平均以上の正答率であった。 ●気づいた点をまとめたものとして適切なものを選ぶ項目においては、全国・市ともに平均以下であった。	・自分自身で考え、記述する項目に関しては、正答している生徒が多い。しかし、選択式の問題では多くの生徒が誤った解答をしている。他者が考えた文章を読み、理解することが難しい生徒が多いため、文章を読む機会を増やし、自分の考えだけでなく、多角的に捉えられるように指導していきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○すべての問題で平均以上の正答率であった。特に歴史的仮名遣いに関しては、94.1%とほぼすべての生徒が正答できていた。 ●「いと」という古文の語句に関する知識が浅い生徒が一定数いるように思われる。	・古文単語などに触れる機会を増やし、現代語との結びつきをより意識した授業を行っていきたい。また、記載してある内容と、自分自身の経験や知識と結び付けて記述する力をより一層養ってほしい。県立入試の作文指導などの際に、より客観的事実を盛り込んだ記述ができるように指導していきたい。
A 話すこと・聞くこと	○自分の考えを記述する力は身につけているように思われる。約90%以上の生徒が正答していた。 ●上記にあるとおり、項目を選ぶ問題の正答率が低い。特に情報について、聞くことが苦手な生徒が多いように思われる。	・聞き取りテストなどを今後実施し、記述式の解答以外の部分にフォーカスし、指導していきたい。その際に、なぜその解答を選んだのかを生徒に尋ね、間違えてしまう傾向をつかんでいきたい。 ・コミュニケーションをとることに抵抗のある生徒は少ないが、自信をもって発表することができない。そのため、自分の力に自信をつけさせるような言葉かけをしていきたい。
B 書くこと	○自分自身で解説する文章を記述する問いでは、84.3%の正答率と、全国・市の平均を10ポイント以上上回っていた。 ●他者が記述したものを選ぶ選択式の問題では、平均を下回っている。上記同様、他者の価値観を理解することが苦手な生徒が多い。	・自分自身で記述することはできるが、選択式は苦手である。特に、自分自身が書いたものや他者が書いたものを読み手がどう思うかを考えることがなかなかできないので、作文を書いた後に生徒間で相互評価する機会などを設けていきたい。
C 読むこと	○読むこと分野ではすべての問題で、正答率を全国・市ともに上回っていた。そして、物語や古文の読み取ったことに関しては、選択式の問題でも正答率は高かった。	・様々な分野の文章に触れる機会を増やし、ものの見方・考え方を更に広げていけるよう指導していきたい。

宇都宮市立河内中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	67.3	63.4	63.0
	B 図形	35.0	34.3	33.2
	C 関数	56.9	51.2	51.2
	D データの活用	53.9	49.4	48.5
観点	知識・技能	58.9	56.2	55.7
	思考・判断・表現	48.2	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

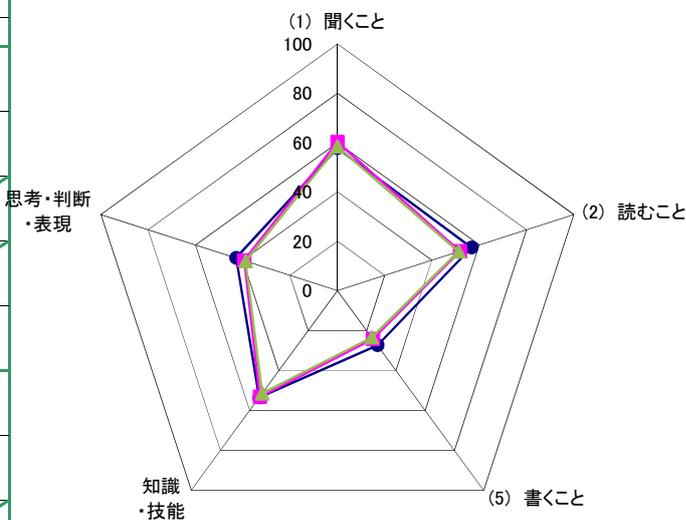
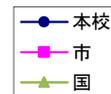
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
A 数と式	<p>平均正答率が市の平均よりも3.9ポイント、県の平均よりも5.9ポイント、全国よりも4.3ポイント高い。</p> <p>○「いつでも3の倍数になることの説明を完成する」の正答率は、全国より8.8ポイント、県より9.9ポイント高い。また「いつでも4の倍数になるかを説明する」では、全国より8.1ポイント、県より8.8ポイント高い。</p> <p>●「6つの数の中から自然数を全て選ぶ」の正答率は、全国より2.0ポイント低く、自然数の意味を忘れてしまった生徒が見られる。</p> <p>●「いつでも4の倍数になるかを説明する」では、無解答の生徒が18.6%おり、無解答率は全国や県より少ないが、分からない問題に取り組みない生徒が見られる。</p>	<p>領域としては、全国・栃木県・宇都宮市より正答率が高いが、数学的語句の意味を忘れてしまったり、分からない問題には取り組みなかつたりする生徒が見られる。</p> <p>今後は、計算問題を中心としたドリル学習を充実させるだけでなく、生徒同士の学び合いの場面で数学的用語を積極的に用いて説明し合う活動を多く取り入れていきたい。また、文字式を利用して説明する問題に対して苦手意識が強くなるように、丁寧に指導するとともに生徒同士の学び合い活動をより一層充実させていきたい。</p>	
B 図形	<p>平均正答率が市の平均よりも0.7ポイント、県の平均よりも3.2ポイント、全国よりも1.8ポイント高い。</p> <p>○「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る」では、全国より10.1ポイント、県より11.7ポイント高い。</p> <p>●「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している」の正答率は27.5%で、全国より2.9ポイント、県より1.4ポイント低い。</p> <p>●「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」では、全国より1.7ポイント低く、無回答率は24.5%と約4人に1人が無解答であった。</p>	<p>三角形の合同条件を正しく覚えている生徒は多いが、合同条件を利用して証明を書くことは苦手である。特に、穴埋め式の証明ではなく自分で証明の筋道を立てて取り組むような問題では正答率が低くなる傾向がある。</p> <p>今後は、基本的な証明問題を取り上げ、図形の見方や条件の記入の仕方、筋道を立てた証明の書き方など、一つ一つ丁寧に指導していきたい。また、証明問題に数多く取り組ませ、考え方に慣れるとともに自力解決ができる喜びを味わわせたい。</p>	
C 関数	<p>平均正答率が市の平均よりも5.7ポイント、県の平均よりも6.9ポイント、全国よりも5.7ポイント高い。</p> <p>○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」では、全国より9.2ポイント、県より11.8ポイント高い。また、「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる」でも、全国より7.9ポイント、県より7.8ポイント高い。</p> <p>●「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の正答率は52.0%であるが無解答率が10.8%と高く、解答できなかった生徒も見られる。</p>	<p>関数の学習に苦手意識をもつ生徒が多く、試行錯誤しながら最後まで自力解決を目指して挑戦しようとする生徒はあまり多くないのが現状である。そこで、最初は基本的な課題から取り組み、自力解決だけでなく友達と学び合う活動を取り入れながら関数の課題に慣れ、苦手意識を減らしていきたい。</p> <p>今後は、小学校で学習した比例・反比例の学習内容から丁寧に復習し、表やグラフの見方、読み取り方、式の表し方などを指導していきたい。また、どこから分からなくなっているのかを明確にし、自力解決ができるようにして、解ける喜びを味わわせたい。</p>	
D データの活用	<p>平均正答率が宇都宮市の平均よりも4.5ポイント、栃木県の平均よりも5.7ポイント、全国よりも5.4ポイント高い。</p> <p>○「複数の集団のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」では、全国より8.6ポイント、栃木県より8.0ポイント高い。また、「四分位範囲の意味を理解しているかどうか」では、全国より3.9ポイント、栃木県より5.9ポイント高く、「累積度数の意味を理解している」でも、全国より3.9ポイント、栃木県より3.4ポイント高い。</p> <p>●「複数の集団のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」での無解答率が19.6%と約5人に1人いる。</p>	<p>平均正答率はすべての問題で、全国、栃木県より高いが、他の領域の問題と比べ、単元間で関連する内容が少なく、年度末に学習する内容のため意識的に取り扱わなければ忘れてしまい、なかなか定着させることが難しい。</p> <p>今後は、数学の授業だけでなく普段の生活にも取り入れ、学校やクラスのアンケート調査の結果や傾向分析などをICT(タブレット)を活用して、データの活用を充実させていきたい。また、学習した内容を日常生活において積極的に生かしていけるように指導していきたい。</p>	

宇都宮市立河内中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	57.8	60.2	58.4
	(2) 読むこと	56.7	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	27.3	24.2	23.4
観点	知識・技能	53.5	53.1	51.5
	思考・判断・表現	42.8	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>○聞くことの中でも、特に、道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題については、72.5%の正答率で、全国や栃木県内の平均正答率より約10ポイント高い。</p> <p>●本校は全国の前年より0.6ポイント低い。日常的话题について、自分の置かれた状況から判断して、必要な情報を聞き取る問題については、3.0ポイント低い。</p>	<p>授業での会話活動の充実と、教科書やワークにあるリスニング問題を実施する。</p> <p>また、ALTとのコミュニケーション活動を増やし、日常的话题を取り上げるなど、英語での会話をし、聞く力を向上させる。</p>
(2) 読むこと	<p>○全国前年値と比べると5.5ポイント上回っている。事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題や、短い文章の概要を捉える問題については、全体的に前年値が高い傾向にある。</p> <p>●全ての項目において、全国の前年値を上回っているが、図書館について書かれた英文など、日常的话题についての読み取りがより低い。</p>	<p>社会的な話題、時事問題に関する専門的な単語力を身に付けさせるため、英語での記事などを読む時間を設ける。</p> <p>また、文章の概要を捉える問題については、必要な情報を正確に早く捉えるため、受験期に合わせた速読の練習を授業の中に取り入れる。</p>
(3) 書くこと	<p>○本校は、宇都宮市、全国ともに、前年値を上回っている。未来表現など熟語を扱う問題については、前年値が高い傾向にある。</p> <p>●日常的话题について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題では、無解答率が高い。</p>	<p>文法事項や熟語を理解している生徒が多い一方で、それらを使って、自分で作文し自分の考えをまとまりのある文章で書くことが苦手である。</p> <p>自分の意見や考え、主張を書く授業を設け、文の書き方を指導し、定期的に発表会やディベートなどを行う。</p>